



発行責任者  
社会福祉法人 名古屋ライトハウス  
理事長 本間 英典  
〒466-0855  
名古屋市昭和区川名本町1-2  
TEL 052-757-3522  
FAX 052-757-3533

## あけましておめでとうございます 平成28年初頭にあたり一言ご挨拶申し上げます

昨年も様々なことがありました。イスラム国による日本人拘束殺害事件、また台風被害が発生し浅間山や箱根山が噴火しました。日本年金機構の情報漏えい問題や沖縄の基地移設問題、東京オリンピックの競技場やロゴの問題など、痛ましい事件や難題が浮かび上がりました。一方で、北陸新幹線が金沢まで開通、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍、国産ジェット旅客機の開発、ノーベル賞受賞など喜ばしく誇らしいトピックスもありました。また、今年の夏からは18歳と19歳の若者も選挙に参加するようになりますね。そして、安全保障関連法案の成立を巡って全国的なデモが展開され、この国のかたちについて多種多様の議論が交わされましたのも、今年の大きな出来事でした。

本年の通常国会にて成立すると予想される社会福祉法の改正は私たち社会福祉法人にとって大きな変化であり、これに対応しなければなりません。これは、「公益性・非営利性の徹底」、「国民への説明責任」、「地域社会への貢献」の3つの視点から、理事会や評議員会の役割の見直しや組織強化、お金の使い方や社会貢献活動の義務化など社会福祉法人の在り方を問い直す大変重要な改正です。

私たち名古屋ライトハウスは、おかげさまで本年設立70周年を迎えることができます。記念事業も準備しているところではございますが、この機に70年の足跡を踏まえつつ、今私たちに求められているものをあらためて見つめ直し、一人ひとりの利用者と地域社会にお役に立てるようまい進みます。

本年もよろしく願い申し上げます。

理事長 本間 英典



年頭のごあいさつ（理事長）.....	1
専務理事あいさつ .....	2
第10回 近藤正秋賞・片岡好亀賞.....	3
わくわくステップ OPEN.....	4
各施設の近況 .....	5～11
同行援護従業者養成研修会・福祉の店 開催.....	12

## 専務理事あいさつ

### 謹んで新春のお慶びを申し上げます

5年ほど前、しばらく空き家になっていた築70年余の生家を、放っておいては不用心だから壊そうという話が持ち上がりました。待てよ、ここは名古屋ライトハウスの事業の始まりの場所ではないか。家族のブーイングや近所の冷やかな空気の中で、改修工事が進められました。

こうして消え去ろうとしていた家が残り、今そこに移り住んでいます。この創設者の一室から始まった事業は、今日では名古屋市内を中心に、7つの拠点において、高齢者、障がい者、障がいのある児童等を対象とした様々な事業を展開しています。そして今秋、創立70周年を迎えます。多くの方々の支えと諸先輩の努力のたまものであり、心から感謝申し上げるものであります。

話は変わりますが、永年会長を仰せつかっている一般社団法人愛知県セルフセンターについて。愛知県セルフセンターは県内の就労支援事業所を会員（当法人の各事業所も会員）とし、そこで作られた製品を販売したり、愛知県・名古屋市等から注文をとり各事業所につなげる等の活動を通じ、それぞれの事業所で働いている障がい者の自立を支援するための組織であります。本紙の最終ページで紹介している障害者作品即売会「福祉の店」の運営もその一つです。

発足以来32年間、愛知県社会福祉協議会内に事務局を置いていましたが、新年をもって独立移転いたしました。同時に、自らが就労支援事業所を立上げ、直接障がい者の自立促進のための活動を推進することになりました。前途多難ではありますが、今後とも変わらぬご支援・ご声援をお願いいたします。

格差社会が進む中、様々な貧困問題が取り沙汰されています。中でも、この国に生を受け、懸命に働き、社会に貢献してきた人々が、穏やかな老後を送れるような国にしなければなりません。

赤いパンツで元気ハツラツ、良き年となりますようお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

専務理事 近藤正臣

# 愛盲報恩会

## 第10回 近藤正秋賞・片岡好亀賞

このたび愛盲報恩会では、第10回近藤正秋賞、片岡好亀賞、並びに地域活動特別賞について、次の3氏に決定しましたのでご報告いたします。

**【近藤正秋賞】** さしだ 指田 ちゅうじ 忠司氏（障害者職業総合センター特別研究員）

推薦者 シン 慎 ヨンホン 英弘氏（四天王寺大学大学院教授）

選考理由：高校生の時、事故により網膜剥離を発症。東京教育大学付属盲学校普通科に進路を変更し、早稲田大学を卒業後、障害者職業総合センターの研究員として、視覚障がい者の雇用問題の研究や諸外国の雇用政策の動向調査など、視覚障がい者雇用問題の第一人者。「点字毎日」に月2回、世界の視覚障がい者の状況を紹介するなど、雇用環境向上に大きく貢献していることを評価して受賞決定となりました。



**【片岡好亀賞】** たけひさ 武久 げんぞう 源造氏（鍵盤楽器奏者）

推薦者 ほりこし 堀越 よしはる 喜晴氏（明治大学非常勤講師）

選考理由：1歳で失明。東京芸術大学大学院音楽研究科を修了し、チェンバロ・オルガン・ピアノなど鍵盤楽器奏者として多数のCDをリリースするとともに、器楽・声楽アンサンブルを結成し、指揮・編曲などにも力を注ぎ、多数のコンクールで審査委員を務めるなど、活発な活動を評価して受賞決定となりました。



**【地域活動特別賞】** みなみざわ 南澤 じゅんこ 純子氏（名古屋市視覚障害者協会常任理事）

推薦者 はしい 橋井 まさき 正喜氏（名古屋市視覚障害者協会副会長）

選考理由：網膜色素変性症で視力低下していく中、花屋「ウィズ・グリーン」を起業し、障がいをもつ人へのフラワーアレンジメント教室講師、視覚障がい者のための料理教室講師を務め、J R P S 愛知支部役員、名視協常任理事・女性部長としての活動を評価して受賞決定となりました。



なお、受賞者、推薦者のご出席をいただき、1月30日（土）に名古屋盲人情報文化センターにて贈呈式を執り行う予定です。

今後とも、名古屋ライトハウス愛盲報恩会にご指導、ご協力をお願い申し上げます。

# 放課後等デイサービス「わくわくステップ」 OPEN!

平成27年10月1日、港区港栄に放課後等デイサービス「わくわくステップ」をオープンしました。法人としては2つ目の障がい児を対象とした事業所です。

「わくわくステップ」は、小学生から中高生へと成長した子どもたちに、「楽しみながら将来（学校卒業後）へのステップとなるような活動を」という想いでオープンまで準備をしてきました。主な活動には、はたらく意欲や能力の向上に結びつくことを意識した就労プログラム（就労体験、パソコン教室、社会見学、職場体験、奉仕活動、創作活動など）や、人との関わりの中で社会性を身につける社会生活プログラム（音楽療法、ダンス、共同制作活動、買い物、料理教室など）があります。活動の随所に個別の役割を設定しているため、日ごとの役割意識や達成感を感じていただけます。

開所式には放課後等デイサービス1号店「わくわくキッズ」の仲間も集まりました。「わくわくステップ」利用希望の子ども達から、「大人になります！」など将来への夢と希望にあ



ふれる宣言がたくさん飛び交いました。

まだ始まったばかりの「わくわくステップ」ですが、これから日々の取り組みを積極的に発信していきます。スタッフ一同どんなときでも「笑顔」・「楽しい」・「可能性」を大切に、子ども達がのびのびと未来に翔くことを応援したいと思っています。

これからみなさまにお会いする機会がいろいろあるかと思えます。年齢や発達段階に応じたサービスを通して、子どもたちの応援をする地域の一員にさせていただければ嬉しいです。よろしくお願いいたします。



お問い合わせ：放課後等デイサービス わくわくステップ

〒455-0015 名古屋市港区港栄四丁目13番1号レジデンス港栄1階

電話 052-387-8553

# 光 和 寮

## 第1回焼きいも大会を行いました!

光和寮では、10月31日の土曜日、「第1回焼きいも大会」を行いました。秋晴れの午後、職員31名、利用者43名の他、就労移行の卒業生17名がデイサービス棟に集合。まず、みんなで協力していもを洗い、アルミホイルに包む作業から始めました。そして事前に用意した5つの焼台を使い、炭火でアルミホイルに包んだいもを焼きました。いもの種類は3種類、男爵いもの他、安納いもと紅あづま。シンプルに塩をかけて食べたり、バターを溶かし「じゃがバター」や「さつまいもバター」を作って食べました。

会場は日陰が多く、長時間じっとしているとだんだん身体が冷えて来たので、焼台5台に暖まりながら過ごしました。みなさんと一緒に焼きいもを作る土曜日の午後、普段は一生懸命作業をしている利用者にとって、この日のイベントは良い気分転換になったようで、皆さんとてもリラックスして焼きいも作りを楽しんでいました。中でも元気な利用者

は、いもを食べるのに飽きると、焼台の前で「私、うちわで扇いでみたい」と申し出て、職員に混じりながらうちわを扇いで残りの焼きいも作りに協力してくれました。細いいもは、短時間で火が通りやすかったのですが、男爵いもは丸い形をしているので芯まで火を通すのに苦労しました。それでも「食欲の秋」、計240個あった焼きいもは好評により、会場の活気に包まれながら最後には全て無くなりました。

今回のイベントは地域交流を目的としました。事前に用意した回覧や看板の掲示、チラシの宣伝効果もあってか、初めて行ったイベントでしたが、地域の方には10名程度参加していただきました。アツアツの焼きたていもの前で、参加していただいた子どもたちの笑顔を見ることができました。これまで光和寮に関心の無かった地域の方々にも、これから関心を持っていただくきっかけとなったことを期待しています。



## 第1回 焼きいも大会



# 明 和 寮

## 事業紹介 **ビーサポート** (就労継続支援事業B型)

明和寮は昭和54年に重度身体障害者授産施設として開所して以来、身体に障がいのある方はたらく場として、より高い工賃の提供とそれを可能にする作業開拓に努めてきました。そして、平成20年1月の事業移行とともに「ビーサポート」と名前を変え、さまざまな障がい種別の方々に利用していただいています。

仕事内容は、就労支援施設としては全国でも珍しい真空成型機によるプラスチックの成形作業を取り入れ、ほかにも自動車部品の組付け・検査などのさまざまな下請け作業や印刷事業を行い、安定した作業量の確保、高い工賃の提供を目指して活動しています。同時に治工具や加工機の開発にも積極的に取り組むことにより、利用者個々の作業能力を発揮できる環境づくりに努めています。また、施設外では授産製品の販売や活動の紹介にも力を入れています。

最近では、就労移行支援事業所と連携して就労継続支援事業A型や一般就労へのステップアップの取り組みも増えてきています。さまざまな視点から、障がいのある方の地域での自立生活を目指して、日々奮闘しているところです。

また、安心して仕事に取り組めるよう、栄養士による栄養バランスの行き届いた給食サービスの提供や看護師の常駐など、環境整備にも努めています。さらに各種クラブ活動や季節に合わせた行事など余暇活動にも力を入れ、リフレッシュや交流の場を設けてます。

これからのビーサポートは、今まで以上に利用者の幅広いニーズに応えるため、さまざまな形で地域と連携した取り組みをしていきます。

みなさま、これからも少しずつ成長し続けていくビーサポートにご期待ください。

真空成型機



自動車部品の組み付け作業



組み付け用治工具



昼食メニューの一例



ライトハウス福祉まつり



行事 (もちつき)



# 港ワークキャンパス

## 新年に向かってwork座談会 ～利用者のために～

☆その時から「良い引き算」の方程式が動き出す☆



### 利用者支援向上を目指す座談会模様の実況中継（抜粋）です。

天 野 「まず、ワークは就労中心の施設ですが相談員から見た職業指導員はどう見えていますか？」

近 藤 「そうですねえ、A型職員は正直言って元気がない！（一同爆笑）」

伊 藤 「どうしてそう見えますか？」

近 藤 「いつもスレ違って事務所にコピーを取りに来る時も眉間にシワが寄って忙しそうで…」

染 田 「バタバタしていてミスが起きそうでいつも心配になってます」

天 野 「平林さん、いつも何時に仕事終わってるの？」

平 林 「遅くなる時が結構ある。家で奥さんに心配されている（苦笑）」

中 田 「B型はどんなの？」

猿 渡 「B型は遅くならないように時間差出勤や常に効率化を目指し皆で考えてケアしています」

全 員 「ほお～（全員頷く）」

伊 藤 「草深さん、生活支援員から営業に配置が変わって何か感じることはありませんか？」

草 深 「生活支援員の時は利用者を見ていたけど、営業になると製品や納期を見るようになってしまったので、福祉職員の感覚ではなくなってしまっているような感じがしている。」

佐々木 「もっと業務改善や職員同士でいつでも助け合えるという仕組みが必要ですね。」

間 瀬 「各自でスキルを上げ、いかに業務に余裕を持つことができるかどうかですね」

野々下 「施設内の部署間を越えたコミュニケーションがもっと必要だということですね。部署長の皆さんの意見を参考に今後、より良い利用者支援に繋がる仕組みを考えて行きますね」

「活発な意見が2016年へと引き継がれます」



### 新製品

## あずきミルク味販売対策会議



### 開発秘話

非常食としては380キロカロリーが必要なためあずきと相性の良い食材を見つけるまで連日の配合実験が繰り返されました。こだわりの北海道産あずきをペースト状で練り込んだ風味豊かな一品に仕上がりました。

## 金属工場5S活動推進中★



5S活動を進めることで、作業性や安全性を上げられるよう取り組んでいます。取り組んだ内容は、改善前と改善後を写真付きで分かりやすく掲示を行い、作業員や見学者にも分かりやすくしています。今後も5S活動を継続しながら、働く方が安全に作業しやすい環境作りに取り組んでいきます。

整理・整頓・清掃・清潔・躰け

# 緑 風

## 東山動植物園「花いっぱいプロジェクト」

緑風では東山動植物園の「花いっぱいプロジェクト」に参加しています。取り組みを始めて1年。地道な活動が認められて、一番目立つ正門前の花壇の手入れを任せられました！

傾斜のある場所だったので難儀でしたが、草花も無事に定着して立派な花壇になりました。草取り作業は「雑草も1ヶ月じゃほとんど生えてないよー。」と言いつつ行ってみたらビックリ！雑草のたくましさに脱帽…。わさわさ生えていて取りきれません。

来月の作業が増えました。

### <9月の定植作業>



### <10月の草取り作業>



### キャットロード祭り



緑風のある地域は猫洞通り…。という訳で、商店街のお祭りは「キャットロード祭り」です。利用者さんと一緒に参加してパンの缶詰を販売。140缶売れました！



### 携帯電話講習会

KDDIの方に来ていただいて、携帯電話の安全な使い方について講習会を開催しました。皆さんけっこう真剣で質問コーナーも盛り上がりました。参考になったかな？



# 戸田川グリーンヴィレッジ

## 研修会での研究発表

### ●「あなたの『食べたい』に寄り添う」 吉原 大介

全国身体障害者施設協議会研究大会にて「あなたらしい自己決定」を演題として、研究発表をさせていただきました。利用者の望む食事を尊重かつ楽しみ続けられることを目的とし、誤嚥や窒息、栄養障がいという危険性を少しでも減らしていくために、食事に関するコンサルテーションを利用者・職員に行いました。

多職種が協同して、本人や家族と相談し寄り添いながら、安全でおいしく食べていただけるような支援につなげることが大切であると感じました。



### ●東海北陸地区身体障害者施設職員研究大会 中野 弘基

1つ1つの日中活動に『あなたらしさ』『自分らしさ』を見出すきっかけ、表現できる機会をと、「あなたらしい暮らしへ～多職種協働での日中活動を模索し続けて」というテーマで発表しました。発表を機に、今後の活動の課題、新たな目標を明確にすることができました。他施設の発表も、日頃同じような課題に向け精進されている姿を想像できました。充実した活動を通じて、「戸田川で良かった」と思われるような施設を目指していきたいと思います。

## 日帰り旅行企画第二弾 知多散策



前回の愛知牧場への日帰り旅行企画に続き、今回は知多散策に行ってきました。今回の知多散策は前回よりも多い5人の利用者と7人の職員の旅行です。

まだ冬が訪れる前のとても気持ちの良い秋の日。戸田川グリーンヴィレッジの一行は、マイクロバスに乗り込んで、これからの旅行に胸を膨らませて楽しく目的地へと向かいます。

最初に訪れたのは「まるは食堂」です。おいしい食事はもちろん食堂からは海が見え、海は太陽の光が反射してとてもきれ

いでした。海を眺めながら次に向かったのは「みかん狩り」です。海の近くで育ったみかんは日の光を浴びて色づき、酸味と甘みのバランスがとても良かったです。最後はえびせんパークです。皆で必死にお土産を選びました。そこで出会った店長さんやお客さんはとても優しく、帰りは手を振って見送って下さいました。

施設に帰ってからも「旅行楽しかったね」と話ができるとても素晴らしい旅行でした。



# 名古屋盲人情報文化センター

## ● 第3回名古屋ユニバーサル運動会を開催しました

11月1日、爽やかな秋晴れのもと、尾張旭市に位置する愛知県森林公園で、名古屋ユニバーサル運動会を開催しました。視覚障がい者の野外活動を応援するNPO-CSネット東海、そして中部盲導犬協会・名古屋盲人情報文化センターが共催団体となり、今回は過去2回に行った運動会競技に加え、森林公園の立地を存分に活かしたウォークラリー競技も加わりました。

視覚障がいを持つ参加者は10代から70代までまさに老若男女の28名。そしてペアとなる晴眼者とスタッフ合わせ総勢約80名がこの日を迎えました。

午前中のウォークラリーでは、1チーム6人編成で晴盲ペアとなり、コマ図と呼ばれるコース図を見ながらゴールまで15カ所のチェックポイントを巡りました。バーベキューの匂い、砂利道、道なりのカーブ…といったチェックポイントを互いの五感で確認しながらも、歩を進める頼りは晴眼者なのですが、天性の方向感覚や方向音痴っぷりも発揮され楽しい後日談もいくつか誕生しました。

芝生広場で各自持ち寄ったお弁当を食べる際は、「柿たくさん持ってきたからみんなに回して」「お菓子も食べて」と声や食べ物が飛び交い、「あの場で昼寝をしたかった」と、この日最もまったり楽しい時間になりました。

午後からは運動広場で4つの競技を開催。ペットボトルを晴眼者が抱える箱めがけて投げる「カラペットほうる」では、何度投げてきれいな弧を描く人や五郎丸選手のように一定の投球フォームを崩さない人が決勝に残りました。最後の競技、6人が列をなすムカデ競争では、前後に足を縛ることが怪我につながりはしないか、と考慮した結果、電車ごっこのように長いヒモを輪にする方式に変更しました。ところが「右・左…」と声を出し合い走るスピードは晴眼スタッフが模擬走行したそれよりもはるかに早く、その心配は杞憂に終わりました。

普段はあまり使わない筋肉(?)を使った参加者の皆さん、心地よい疲労感が漂う足取りと表情で帰路につきました。

ウォークラリー



菓子食い競争



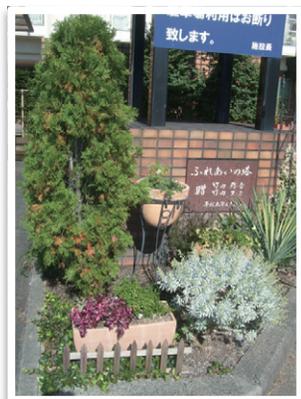
ムカデ競争



# 瀬古マザー園

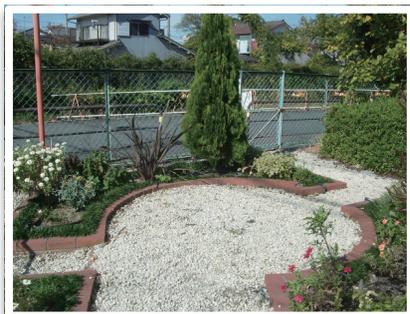
## ○ 環境整備プロジェクトが5年目に突入しました

平成22年度に着手した環境整備プロジェクトもいよいよ5年目になりました。利用者様にとって心安らげる生活環境づくりの一環として庭の整備事業等を計画的に進めており、①来園者の方をお迎えする時計台から正面玄



関の花壇②利用者の散歩コース③野菜の収穫などが楽しめる食堂前庭の腰高花壇④地域の皆様にも楽しんで頂ける駐車場脇の南西花壇や施設を囲う桜並木など、少しずつ整備してきました。利用者様が「見て」「触れて」「匂って」「聞いて」いただきながら、四季の変化、木々や草花の生長を感じ取ることができ、毎日の生活のハリと安全に楽しんでいただけるような庭園になってきました。

今後も利用者様に楽しんでいただけるよう、園全体での環境整備を行っていききたいと思います。



## ○ 各種設備の改修、更新について

マザー園は開設して27年目となり、建物や設備の老朽化が目立ってきています。これまでも適宜設備の更新を行ってきましたが、今年度上期には、業務用洗濯機・乾燥機、電話設備の更新、また養護棟居室におけるLED化などを、下期にはキュービクル改修工事を行ないました。今後も利用者様に安心・安全を確保することができるよう、また利用者サービスの維持向上を図るべく、計画的に設備の更新をすすめていきたいと思います。



## 同行援護従業者養成研修会を開催しています。

「同行援護」とは、視覚障がいにより移動に著しい困難を有する障がい者等につき、外出時において、当該障がい者等に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護その他の厚生労働省令に定める便宜を供与することです。(障害者総合支援法第5条第4項)

名古屋ライトハウスでは、この同行援護に従事することのできる従業者の養成研修を行っています。今年度は以下の日程で開催・計画を進めています。

11月25日・30日、12月2日・7日・9日の5日間(計32時間)、会場は光和寮で24名の方に受講していただきました。現在、1月27日、2月1日・3日・8日・10日、港ワークキャンパスでの開催に向けて準備を進めています。当法人講習会の特徴は、幾つかの講義で視覚障がい当事者が実例を交えながらわかりやすく説明をする点です。

今後も年に1・2回、研修会を開催する予定です。詳細は以下のページをご覧ください。

<http://nagoya-lighthouse.jp/assist/>

問い合わせは、TEL：052-751-1268、FAX：052-762-2125、  
e-mail：doukou@nagoya-lighthouse.jp(担当 岩間)

## 障害者作品即売会「福祉の店」開催!

今年で36回目となる障害者作品即売会「福祉の店」が、県内5会場で開催されます。

「福祉の店」は、障がいのある方が日ごろの訓練を活かして制作した製品や、長年培ってきた経験や技能を活かした作品を展示即売することにより、生産活動を通じて社会参加への意欲を助長し、自立を促進するとともに、県民の障がいのある方に対する理解を深めることを目的としています。また東北被災地復興支援を目的として実施する「がんばろう東北」販売会も同時開催されます。

ぜひとも足をお運びください。

3月1日(火)～3月7日(月)	イオンモールナゴヤドーム前
3月2日(水)～3月7日(月)	西尾おしろタウンシャオ
3月7日(月)～3月11日(金)	イオンモール扶桑店
3月8日(火)～3月14日(月)	イオン豊橋南店
3月15日(火)～3月17日(木)	金山総合駅コンコース特設会場

お問い合わせ：一般社団法人 愛知県セルフセンター TEL：052-304-7890